

富山県赤十字奉仕団
2日間のべ200名の団員による
炊き出し研修会を実施

6月29日(土)30日(日)の両日、富山県支部前駐屯地において、奉仕団員による炊き出し研修会を行いました。

県内の奉仕団が炊き出し活動を始めたのは、昭和38年に遡ります。それから50年。現在では、県内各地で自主防災会が組織され、地域奉仕団への炊き出し依頼の回数は一年を通して、とても多くなりました。そのことを受け、県内どこでも同じ炊き出しのご飯が提供できるような基礎を学びなおし更なる徹底を目指そうと、今回初めて大規模な研修会を企画しました。

実際の災害時、必ずしも必要なものが手に入るとは限りません。今回の研修会では、避難所となる公民館や学校にあると予想されるものを利用しました。計量カップ代わりに湯呑茶碗、ジヨウゴの代わりにクリアファイルを使用したのは、その代表例です。

今回参加の奉仕団員のみならず、炊き出しの際はリーダーとなり、今回知ったことや改めて確認できたことを各団員にしっかりと伝え、実践と普及に役立てていただきたいと思います。

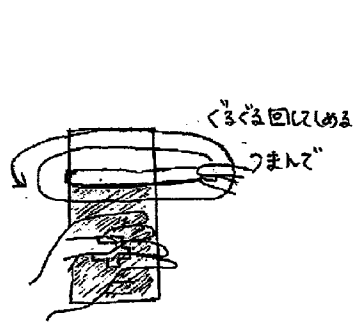


奉仕団とやま

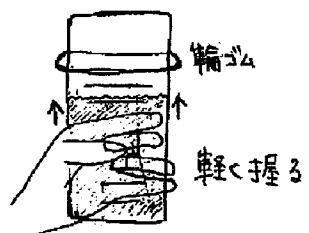
発行
赤十字奉仕団
富山県支部委員会
富山市牛島本町2-1-38
日本赤十字社富山県支部内
電話 (076) 441-4885
年1回発行

「炊き出し研修の概要」

- ・参加者全員がレトルトカレーと一緒に食すハイゼックスを作る
- ・レトルトカレー用のハイゼックスは、湯呑み茶碗(0.9合 160ml)を使用して計量
- ・ハイゼックスを使用し、班ごとに調味料入り(梅干し、さざなみ、さつまいも、山菜、蒸しパン)を作る
- ・調味料入りハイゼックスは、もずくのカップ(0.7合 130ml)を使用して計量
- ・炊き出しは、移動組立式炊飯器の組み立てから始める



④ハイゼックスの上部を折り返し、3回ほど輪ゴムをかける。



③水が上がついている状態で一気にぐるぐる輪ゴムを回してしめる。

※水の割合
無洗米：普通米：新米
1.3 : 1 : 0.9

①米の量に応じてしめるラインを決め、そこに輪ゴムを1回かける。

②ハイゼックスの下の部分を握り、水を輪ゴムのラインより上に上げる。



上部を折り返し
3回ほど輪ゴムを
かける

⑤釜に入れる前に、空気が残っていないかも一度チェックする。

1回の釜の中に入れるハイゼックスの量は、米10kgを目安とする
(1合1180個)
(0.9合1195個)
(0.7合1120個)

**研修会で寄せられた感想を
一部紹介します**

炊きあがった後に蒸らすと、ご飯が美味しくなった。保温ケースの必要性を実感した。

各自の責任が生じるので、ハイゼックスへの記名が良かった。

時間の経過とともに忘れるので、定期的に研修の場を設けてもらいたい。

炊飯機の設定の仕方も学べた。



表彰を受けられた方々
おめでとうございます。
今後益々の活躍を
ご期待申し上げます。
(敬称略)

業務功勞

- 厚生労働大臣感謝状
山室赤十字奉仕団(富山市)
- 金梓感謝状(10年継続)
十二町赤十字奉仕団(氷見市)
- 銀梓感謝状(5年継続)
武田東洋子(南砺市井波赤十字奉仕団)
- 大住 蓉子(富山赤十字奉仕団(特殊千森 孝行(富山赤十字救護奉仕団)(特殊

社資功勞

- 金色有功章
井村 敏子(福岡町赤十字奉仕団(高岡市)
- 吉國 一二(福岡町赤十字奉仕団(高岡市)
- 大越 晴美(福岡町赤十字奉仕団(高岡市)
- 松原百合子(伏木赤十字奉仕団(高岡市)
- 中島 彬子(伏木赤十字奉仕団(高岡市)
- 井上 久子(庄川町赤十字奉仕団(砺波市)
- 川越 京子(愛五赤十字奉仕団(富山市)

※社資功勞につきましては、赤十字奉仕団員並びに奉仕団幹旋の受章者のうち、ご承諾をいただいた方のみ掲載しております。

(H25.1.11~H26.1.31)

**平成26年度に周年記念を迎える
奉仕団の紹介**

赤十字奉仕活動を地域に根付かせたご苦労を思い、後輩につなげていくことを願いながら、節目の年を皆でお祝いいたします。

- 一〇周年 窪赤十字奉仕団
- 一〇周年 窪赤十字奉仕団
- 三〇周年 南砺市城端赤十字奉仕団
- 三〇周年 ともしび赤十字奉仕団
- 四〇周年 吉久陸赤十字奉仕団
- 五〇周年 尚星赤十字奉仕団

ボランティア保険について

日赤県支部が加入しているボランティア保険について、お知らせします。

不慮の事故(大小に関わらず)の際は、所属奉仕団委員長を通じ、市町村の日赤担当者と県支部へ報告して下さい。

保障内容は次のとおりです。

- 他者への賠償金 5億円
- 自身の傷害
- 死亡・後遺障害 1,254万円
- 入院一日ごと 6,300円
- 通院一日ごと 4,200円

【保障となる活動】

○日本国内における奉仕団活動(所属奉仕団及び日赤県支部が認めるもの)

※会議や研修会も含まれます。

なお、海難、山岳救助活動は対象となりません。

平成25年度富山県支部扱い義援金・救援金の受付 ※金額及び件数は2/28までの累積

国内	海外
●東日本大震災義援金 292件 24,079,087円	●鹿児島県奄美南部台風第24号災害義援金 3件 35,322円
●平成25年夏島根県西部大雨災害義援金 7件 64,717円	●伊豆大島等台風26号災害東京都義援金 16件 315,629円
●山口県平成25年7月28日大雨災害義援金 7件 59,338円	●千葉県茂原市台風26号災害義援金 4件 33,946円
●岩手県平成25年豪雨・大雨災害義援金 7件 67,239円	●シリア人道危機救援金 9件 68,119円
●秋田県大雨災害義援金 7件 57,217円	●2013年中国四川省地震救援金 6件 92,546円
●埼玉県竜巻災害義援金 5件 35,247円	●2013年インド洪水災害救援金 5件 72,839円
●埼玉県台風18号災害義援金 4件 27,089円	●2013年フィリピン台風救援金 46件 3,262,553円
●平成25年9月京都府台風18号災害義援金 4件 35,195円	●平成25年度NHK海外たすけあい 747件 5,991,021円
●平成25年滋賀県台風18号災害義援金 1件 10,000円	
合計	1,170件 34,307,054円

(郵便振替を利用され、日赤本社や被災地支部に直接送金された分の件数・金額は、この記載に含まれておりません)

くんのこぼれ

東日本大震災以降、色々な目線が変わった様に思います。子供たちを見守る目、減少する人口と高齢化が進む町を見守る目。その眼差しの奥には、地域に対する愛着があつて。

自主防災についても改めて見直され、県内でも続々と組織されていきます。奉仕団が行う炊出しも、地域に欠かせない存在となりました。

私達赤十字奉仕団員は、心をひとつに、これからも災害などに苦しむ人々を思いやり、受けた痛みや負った傷を癒し、一人一人がそれぞれに出来ることを行っていくましよう。

奉仕団とやま29号を編集しました。発行にあたり、ご寄稿いただきました方々に感謝申し上げます。また、ご意見・ご要望等ございましたらお聞かせ下さい。

(金森記)

編集委員

西野 優子 石原千恵子
松林 富子 竹苗 典子
金森 辰美 中村ひとみ
米井満知子 武田 典子
川口 貞明 塚本亜由美

提供しています。この文化祭の場を利用して地域のみなさんに病院ボランティアを紹介しようと、今年、活動時に身につけてい



ほとんどの団員は、年1回の救急法講習しか受けていません。そのため、団員からは、救護の正しい手当、知識、技術を身につけたいとの声がたくさん聞かれました。日本赤十字社では、赤十字救急法基礎講習の1日コースと救急員養成講習

秋晴れの10月中旬に、全国から南砺市へ約1100人が集いました。厚労省主催の「介護保険推進全国サミット」の開催です。テーマは、「市民協働の『地域包括医療・ケア』を目指して」



活動を継続するには団員の数を増やすことがとても大事だと感じ、役員会で話し合ったところ、「地域のボランティア活動の中で団員募集に取り組んではどうか」という意見が出ました。私たちの奉仕団は、毎年、呉羽地区の文化祭で、子どもたちや母親クラブ、食生活改善推進員に助けってもらいながら、炊き出しや非常用カトラリスを提供しています。

井波赤十字奉仕団には、市民体育大会、老人スポーツ大会、南砺市ゲートボール大会などでの救護班の依頼があります。その時は、救護の資格がある団員や看護師の資格のある団員と、他の団員が1組となり救護活動を行ってききました。

「地域で開催される全国会議での赤十字奉仕団活動PRへの取り組み」

赤十字マークが多くの人々の注目を得て、参加の意義を大切に、貴重な機会を得ることが出来たことに団員一同感謝しています。サミットの象徴である「転ばぬ先の杖」は、田中南砺市長から熊本市長に手渡されました。今後もサミットの発展を期待しています。

私達は、全奉仕団員44名のうち20名が赤十字病院で玄関ホール、受付の手伝い、リハビリの補助といったボランティア活動を行っています。奉仕団として重要な活動の一つであるこの活動ですが、体力の低下や年齢などを理由に参加できる団員は年々減少傾向にあり、悩んでいました。

これからもいろいろな機会や、急がず休まず、夢を追いながら取り組みを続けていこうと思います。

今後は、救護班をすすんでお引き受けし、社会のためにお役に立ち、奉仕団の精神で行動していきたいものです。

地域の人たちと共に奉仕の輪を広げることが私たちの標であり、サミットの主旨に重なることから、何らかの形で参画したいと申し出て、パネル展示が了承されました。二面のパネルには写真とその説明を加え、日頃の奉仕団活動の内容、南砺市の八奉仕団の連携イキイキと活動する南砺市赤十字奉仕団の魅力を、多くの人にアピールすることが出来ました。

「病院ボランティアを通しての団員募集への取り組み」

初めての取り組みは、反省がいつぱいですが、なかなか積極的に声かけられず、思うように声が出せませんでした。それでも、団員みんなで力を合わせ、少しずつ奉仕団の活動と病院ボランティアについて伝えることが出来ました。

はじめは、3日間も頑張れるだろうかと思いましたが、最終日には資格取得のための検定もあるとのこと、みんな一生懸命受講しました。そして、最終日。さすがは赤十字奉仕団員。全員が合格し、赤十字救急員の資格をいただきました。

「赤十字救急法救急員養成講習を団員が受講する取り組み」

赤十字奉仕団員になってくださるより、お待ちしています。

南砺市井波赤十字奉仕団 委員長 武田東洋子



委員長 松林 富子

活動推進奉仕団報告

白菊赤十字奉仕団(富山市) 委員長 中村ひとみ

平成26年度県支部奉仕団事業計画

- 4月 赤十字奉仕団富山県支部委員会(富山)
- 5月 赤十字運動月間 社員増強運動 奉仕団街頭PR活動(広報紙・ティッシュ配り) 在宅ひとり暮らし高齢者訪問(BOXティッシュ) 全国赤十字大会(東京)
- 6月 赤十字奉仕団中央委員会(本社) 青年赤十字奉仕団第三B代表者会議(長野) 愛の血液助け合い運動月間 赤十字奉仕団支部常任委員会(支部) 赤十字奉仕団研修部会(支部) 赤十字奉仕団研修会(富山) 青年赤十字奉仕団全国協議会(本社) 青年赤十字奉仕団リーダー養成研修会(御殿場) 富山県総合防災訓練(新川方面)
- 7月 赤十字奉仕団支部常任委員会(支部) 赤十字奉仕団研修部会(支部) 赤十字奉仕団研修旅行(長野)
- 8月 赤十字奉仕団第三B委員長会議(静岡) 赤十字奉仕団支部常任委員会(支部) 赤十字奉仕団委員長会議(立山) 赤十字奉仕団委員長会議(靴下) 在宅ひとり暮らし高齢者訪問 在NHK海外たすけあい運動
- 9月 赤十字奉仕団とやま編集委員会
- 10月 赤十字奉仕団支部指導講師研修会(葉山) 赤十字奉仕団研修部会役員会(支部) 赤十字奉仕団支部常任委員会(支部) 赤十字奉仕団とやま(第30号)発行
- 11月 赤十字奉仕団とやま(第30号)発行
- 12月 赤十字奉仕団とやま(第30号)発行

*第三B(第三ブロック)富山・石川・福井・岐阜・長野・愛知・静岡・三重 8県で構成

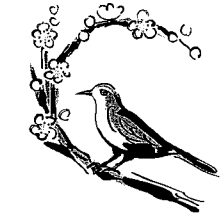
赤十字奉仕団富山県支部 委員会委員長として



西野 優子(鎌川奉仕団) 赤十字奉仕団員のみ

私は、赤十字奉仕団員として、2期目の1年が過ぎようとしています。どうかこの重責を、皆さまのお力添えにより頑張つて参りました。日々の活動の中で、ある日、私の奉仕団に入られた新入団員の方から、1つの質問がありました。社資と募金(義援金)の違いについてです。私の不注意から、新しく団員になられた方にしつかり説明していませんでした。

その団員さんは、「社資って、大きな役目をもっているのですね。」と、頷いて下さいました。今回は、私の奉仕団であった質問を紹介させて頂きました。こういって質問は、委員長さん方もよく尋ねられると思います。委員長さん方にお願いです。どうか、社資の流れと社資の尊さを、団員の皆さんにお伝えください。1人でも多くの理解者を増やしていただきます。これは、支部委員会委員長としての、私からのお願いです。



赤十字奉仕団結成状況

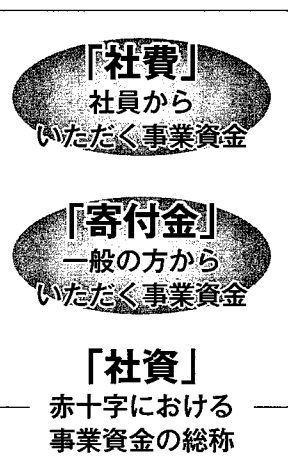
全 国	地域赤十字奉仕団	2,208団	2,159,441人
	青年赤十字奉仕団	157団	7,057人
	特殊赤十字奉仕団	658団	37,390人
	個人ボランティア	—	3,635人
	計	3,023団	2,207,523人
富山県	地域赤十字奉仕団	53団	3,679人
	青年赤十字奉仕団	3団	143人
	特殊赤十字奉仕団	7団	205人
	計	63団	4,027人

特集 社資・表彰制度

赤十字事業資金の募集について、赤十字奉仕団員のみならずには日頃から格別のご尽力、ご協力を賜り心から厚くお礼申しあげます。

社資

日本赤十字社の活動は、「社資」と呼ばれる事業資金によって成り立っています。奉仕団への助成金や、支部が主催する会議・研修会などの運営費用は、この「社資」を基に成り立っています。



○社員：毎年、一定額（500円）

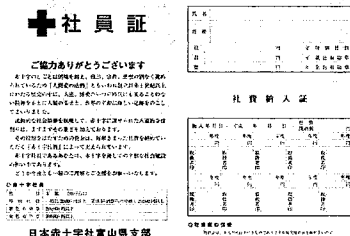
以上の資金協力をして下さる方のことを指します。赤十字で働く人のことは「職員」と呼びます。

※ 富山県内の奉仕団員は、「社費」を毎年拠出して下さる「社員」です。

○義援金：日本赤十字社の財源（事業資金）には、なりません。利息も含め、全額、被災者に送金されます。

○救援金：海外で災害などが発生したとき、その災害に用途を限定して使われ、赤十字が現地で行う救援事業（医療・保健衛生・仮設支援など）の財源になります。

また、奉仕団には、「社員証」という用紙の活用を呼び掛けています。この社員証で、10年分の社費の納入を管理することが出来ます。



表彰制度

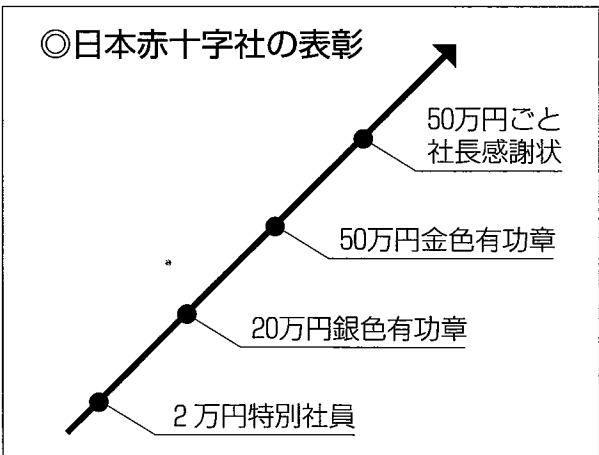
社資のご協力に対する感謝のしるしとして、日本赤十字社は表彰制度を設けています。（それぞれに陶器製の門標が付きますが、これは富山県支部が独自に行っている取り組みです。）

「特別社員」一時または毎年2千円以上のご協力をいただき、その累計額が2万円以上に達した個人に対し、称号付与と通知書などを贈呈。

「銀色有功章」一時または累計額が20万円以上50万円未満のご協力を頂いた個人（法人）に対し、楯などを贈呈。

「金色有功章」一時または累計額が50万円以上のご協力を頂いた個人（法人）に対し、章記などを贈呈。

「社長感謝状」金色有功章受章後、一時または累計額が50万円以上のご協力を頂いた個人・法人等に対し、感謝状を贈呈。



また、銀色有功章・金色有功章・社長感謝状を受けられた個人に対し、富山県支部では、明治神宮会館で開催される全国赤十字大会への招待を行っています。



【参考①】

東日本大震災の際に、世界各国の赤十字（赤新月）社を通じて、たくさん「救援金」が寄せられました。この時お預かりした「救援金」は、仮設住宅での暮らしを支えた家電の整備、保育園の建設などに役立てられています。

【参考②】

「海外たすけあい」は、救援金の仲間ですが、用途を限定することなく募集し、広く海外での支援に使われます。

射水市大島赤十字奉仕団の活動

委員長 前田清美

射水市大島赤十字奉仕団、現在の団員数69名です。年齢は40歳台から80歳台と幅広く、毎年恒例の炊き出し訓練は、総会の日に実施しています。地元の大原屋ショップで五日間にわたって行うNHK海外たすけあい運動には、JRC加盟校の大島小学校のボランティア委員会の児童も参加してくれています。

また、今年のひとりぐらし高齢者訪問では、団員の心をこめて手作りしたものをお渡ししました。ピンク色のペーパークラフトで籠を編み、その籠の中には白色のロープで作ったマルチーズに似た犬、雄と雌の2匹を入れました。目、口、頭のリンでそれぞれ個性のある顔。何日もかけて作った籠70個と犬140匹は、奉仕団員の協力の結果です。ピンクの籠の中に白いフワフワの犬。とても心が和み、温かい感じになりました。

届けたときの皆さんの顔は「こり笑顔で、「ああ可愛いね」「手作り大変だったでしょう」「嬉しいわ」など、自分の頬につけて大変喜んで下さいました。

寒い冬、外出も少なくなると思われます。「おこた」の上に置いて、日々の生活の癒しになれば幸いです。



庄川町奉仕団(砺波市)結成三十周年の節目に

委員長 武田典子

昭和58年に発足した当団が30年の月日を経ました。庄川町はボランティア活動が盛んで輻輳するグループがあり中には奉仕団活動から生まれたものも多く、発足時は特にすみわけが大変であったと思います。そんな中、初代大浦委員長が婦人会、ボランティアの連合体等の長を一手に引き受けられていたことで各々が上手に仕分けられ、奉仕団にも席をおいていることから根っこには赤十字の精神を踏まえて活動です。

また、各地区振興会長が理事であり奉仕団活動への理解も深く協力もしてもらえ、男性団員の増加にもつながっています。節目の今年度は共助の気持ちを深めることを目的に各地区での研修会を企画しました。炊き出し、ブローチ作り、救急講習など役員の仕事により、単独でまた公民館まつり等とあわせて行い、特に高齢者からはいざというときに頼れると喜ばれました。

今後も地区研修会を毎年行い、地域に根ざした奉仕団として活動していきたいものと思います。



ともしび赤十字奉仕団の活動

委員長 藤井暁子

当団は7番目の特殊奉仕団として、昭和60年、赤十字の看護学校卒業生13人で発足設立しました。「ナイチンゲールのランプにあやかり、社会に希望の光を投げかけたい。自分自身の心にも灯をかがげ息の長い活動をしたい」という活動方針で走り出したと聞いています。

当時、病院は土曜日も開院しており、団員は医療や保健の現場体験もあり病院事情に明るかったため、病院ボランティアの種々の実践活動に努めてきました。その後、定年退職者達が参入し、団員は平成25年で34人です。

活動内容は、病院ボランティア、看護学校の模擬患者役、春・秋護国神社例大祭、全日本アマチュア無線大会、視覚障害者スポーツ大会、身障者ファミリーパークイベント等の救護に協力しています。団員の半数は高齢化や現役のためなかなか実践の活動には参加していただけませんが、それでも義（救）援金の協力をいただき感謝しています。また、年3回、団員の親睦と連携のための会報を発行しています。

赤十字を愛する仲間が集い、微力ながら可能な活動で、ともしびの灯を灯し続けようと頑張っています。



中、雨の来ましが、史津の館部閣の



立山町赤十字奉仕団では、継続されてきた他団との研修会が平成18年度以降中断してしまいました。そんな中、伏木赤十字奉仕団が県下の奉仕団の中でも特に地域に根ざした活動を意欲的に取り組んでおられると伺い、山下委員長に依頼しましたところ、快諾して下さいました。

研修旅行記

「会津若松『八重の桜』と会津磐梯温泉」に参加して
下村赤十字奉仕団(射水市)
委員長 竹苗 典子

龍岡城五稜郭(長野県)
平成26年10月20日(月)
平成26年10月21日(火)

Table with 2 columns (1日目, 2日目) and 2 rows of travel itinerary details including bus routes and sightseeing spots like 有磯海SA and 龍岡城五稜郭.

平成二十六年年度の研修旅行ご案内

津藩校日新館を訪れ、当時の施設が忠実に復元され、学習の様子をうかがい知ることが出来ました。
2日目は、野口英世記念館・世界のガラス館を訪れ、その後白虎隊員20名が集団自刃した飯盛山の中腹にたたずむ隊士の墓に線香をたむけました。

Informational section about the Red Cross symbol. Includes text: '紛争地域などで「赤十字マーク」を掲げている病院や救護員などには、絶対に攻撃を加えてはなりません。' and an illustration of a Red Cross tent.

Large informational section titled '赤十字 知っていますか? このマークの本当の意味'. Explains the history and meaning of the Red Cross symbol, mentioning the Geneva Convention and the Red Cross Society of Japan.

伏木赤十字奉仕団との研修会
立山町赤十字奉仕団
委員長 石原千恵子

立山町赤十字奉仕団では、継続されてきた他団との研修会が平成18年度以降中断してしまいました。そんな中、伏木赤十字奉仕団が県下の奉仕団の中でも特に地域に根ざした活動を意欲的に取り組んでおられると伺い、山下委員長に依頼しましたところ、快諾して下さいました。

らにたくさんのボランティアを自主的にされていて、高齢者、幼稚園児、保育園児とのふれあい活動もされています。その他にも、年3回、会報「帆ばしら」を発行されていることを知りました。
また、活動は分団ごとの実施であることも多く、分団ごとの組織が堅実であることは、これまで行われてきた分団研修(赤十字の生い立ちなど)の賜と感じました。

Section titled '純粋地域奉仕団 第一号結成から50年'. Includes a group photo of members and text celebrating the 50th anniversary of the first pure local service unit in the region.

Section titled '尚星赤十字奉仕団 結成50年に際して'. Includes a group photo and text celebrating the 50th anniversary of the formation of the Shosei Red Cross Society.